



2020年度

(令和2年度)

事業報告書

第1 法人の概要

- 1 学院の母胎
- 2 学院のモットー、教育理念
- 3 学院の沿革と概要

第2 事業の概要

- 1 2020年度 事業方針
- 2 2020年度 法人 事業報告
- 3 2020年度 中学校高等学校 事業報告
- 4 2020年度 小学校 事業報告
- 5 2020年度 こども園幼稚園 事業報告

第3 財務の概要

- 1 財務の経年比較

学校法人 聖母被昇天学院

第1 法人の概要

法人の名称	学校法人 聖母被昇天学院
法人の住所	大阪府箕面市如意谷 1-13-23
電話番号	072-721-7680
設立	1954年（昭和29年）2月6日学校法人被昇天学園設立認可

1 学院の母胎

学校法人聖母被昇天学院は、1839年フランスのパリで聖マリ・ウージェニーによって創立されたカトリック聖母被昇天修道会を母胎としています。聖マリ・ウージェニーは、1817年8月25日フランスのメッツで生まれ、2017年8月に生誕200周年を迎えました。

聖マリ・ウージェニーは教育理念「自立した女性を育てる」の具現化のため、世界各国に教育機関として聖母被昇天学院を創立しました。

日本では、1952年にフィリピンとヨーロッパから5人のシスターたちが来日して修道院を創ると共に、教育事業の開設を準備いたしました。1954年に学校法人として認可されて以来、今日までの64年間、聖マリ・ウージェニーの教育理念の原点に立って、こども園幼稚園・小学校・中学校高等学校の保育並びに教育活動を展開している。

2 学院のモットー、教育理念

(1) 学院のモットー

「誠実・隣人愛・喜び」 『世界の平和に貢献する人の育成』

(2) 教育理念

LIFE—生き活きとエネルギーに生きる人

TRUTH—いかなる時でも真実を見極め、誠実に行動する人

FREEDOM—周りにながされず自分で判断し、自分らしく生きる人

GOODNESS—一人ひとりの善さを大切に、ポジティブに思考・発言・行動する人

ONENESS—誠実・隣人愛・喜びの精神大切に、多様性を認め、ともに協働する人

3 学院の沿革と概要

(1) 法人設立認可年月日

1954年（昭和29年）2月6日学校法人被昇天学園設立認可

1987年（昭和62年）4月1日学校法人被昇天学園から学校法人聖母被昇天学院に名称変更

(2) 学校園設置認可年月日

1954年（昭和29年）2月9日幼稚園設置認可

1954年（昭和29年）2月9日小学校設置認可

1959年（昭和34年）11月6日中学校設置認可

1962年（昭和37年）9月29日高等学校設置認可

1967年（昭和42年）1月23日短期大学設置認可

2005年（平成17年）7月29日短期大学閉学認可

2015年（平成27年）3月31日幼稚園廃止認可

2015年（平成27年）4月1日認定こども園設置認可

(3) 設置する学校園の概要

幼稚園 1953 年（昭和 28 年）4 月 1 日開園、2015 年（平成 27 年）3 月 31 日閉園
小学校 1954 年（昭和 29 年）4 月 1 日開校
中学校 1960 年（昭和 35 年）4 月 1 日開校
高等学校 1963 年（昭和 38 年）4 月 1 日開校（全日制普通科）
認定こども園聖母被昇天学院幼稚園 2015 年（平成 27 年）4 月 1 日開園

2015 年（平成 27 年）4 月 1 日認定こども園聖母被昇天学院幼稚園開園
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際小学校に名称変更
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際中学校に名称変更
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際高等学校に名称変更
2018 年（平成 30 年）4 月 1 日こども園アサンプション国際幼稚園に名称変更

(4) 学校園の生徒等数の状況

2020 年 5 月 1 日現在（単位：人）

区分	収容定員数 (A)	現員数 (B)	収容率 (B/A)
こども園アサンプション国際幼稚園	324	259	80.0%
アサンプション国際小学校	360	303	84.2%
アサンプション国際中学校	240	160	66.7%
アサンプション国際高等学校	360	317	88.1%
合計	1284	1039	

認定こども園聖母被昇天学院幼稚園は 2018 年 4 月 1 日に、こども園アサンプション国際幼稚園に園名を変更

(5) 役員、評議員の概要

2020 年 5 月 1 日現在（単位：人）

職務	定員数	現員数
理事	5	5
監事	2	2
評議員	11	11

(6) 教職員の概要

2020 年 5 月 1 日現在（単位：人）

区分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
教員	本務	18	29	23	22	92
	兼務	15	15	11	10	51
職員	本務	2	3	5	3	13
	兼務	0	0	0	0	0

第2 事業の概要

1 2020年度 事業方針

アサンプション国際 2020年度 事業計画と概要

(事業目標)

(1) 経営再建として5カ年をめどに単年度収支の黒字化を図るため、下記の募集人数を確保する。

小学校	60名	(募集定員 60名)	⇒ 事業実績	2020年4月新入生	65名
中学校	50名	(同 80名)	⇒ 事業実績	2020年4月新入生	52名
高等学校	130名	(同 130名)	⇒ 事業実績	2020年4月新入生	92名
		(合計240名)			(合計209名)

(2) 小中高は、「21世紀型教育」3本の柱の中 本学院の特性を生かし特に英語教育に力を入れ、広報の柱として募集を図る。

(3) 学院スクールモットー「誠実 隣人愛 喜び」を生きる生活基盤となるよう、教育課程の様々なところにカトリック理念を入れ込むアサンプション教育の徹底を図る。

(事業展開)

(1) 学院が統一した教育精神を伝え、幼稚園と小学校、小学校と中学校の連携を強化し、入試広報につなげる。

(2) 学院で学ぶ生徒が、自分の可能性を見出し、生きる力を身に付ける。また、カトリック校としての伝統である「心豊かな教育」と共に、予測不可能な時代に立ち向かい、生きる力を身に付けるためにPBL「課題解決型学習」を日常の学びに充実・発展させる。

(3) 学院の「教育の3本柱」は、PBL (Project Based Learning 課題解決型教育)・英語教育・ICT教育である。各所属ごとに学齢に合った教育活動の土台とする。

(4) ICT教育においては、小学校1年生からiPadを一人一台持参する。

(5) 学院の教育理念である「ONENESS」を、学院全体に浸透させ、学院として学びの共同体となる。

(事業実績) 2020年度在校生の内訳

	男子		女子		計
小学校	91	30.0%	212	70.0%	303
中学校	70	43.7%	90	56.3%	160
高等学校	139	43.8%	178	56.2%	317
計	300	38.5%	480	61.5%	780

2 2019年度 法人 事業報告

1 近年の入学生激減から脱却し、増加傾向に転換した。

① 本学院は、創立者のカトリックの精神に添い、教養ある人材の育成を掲げ、1954年(昭和29年)2月に学校法人被昇天学園として設立認可を受け、幼稚園及び小学校を開校し、以後順次、中学校、高等学校、短期大学を開校し、以後、1987年(昭和62年)4月に法人名を聖母被昇天学院に変更し、2005年(平成17年)7月に短期大学を閉学したが、本学院の母胎である聖母被昇天修道会の教育理念に従って学校教育及び保育を展開してきた。

② しかし、近年は少子化の影響をもろに受け、2015年4月には小学校入学生が15名と激減した。

近年の5月1日在籍生徒数と収容定員充足率

年度	収容定員	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
幼稚園	324	307	288	318	310	314	308	309	296	285	275	259
小学校	360	302	284	267	247	222	189	179	208	244	267	303
中学校	240	197	184	181	174	149	133	133	117	127	141	160
高校	240	176	199	197	186	174	172	164	184	233	311	317
総合計	1164	982	955	963	917	859	802	785	805	889	994	1039
小中高計	840	675	667	645	607	545	494	476	509	604	719	780
小中高収容定員充足率		80.4%	79.4%	76.8%	72.3%	64.9%	58.8%	56.7%	60.6%	71.9%	85.6%	92.9%

2 施設設備工事等による支出

共学化、生徒数増加に伴う工事がひととおり終了し、2020年度は施設関係の支出は¥1,980,000円にとどまった。

<参考>

2019年度： ¥47,438,430

使途：2019年度の生徒・児童数増加による教室改修工事

2018年度： ¥104,045,200

使途：男女共学校、21世紀型教育施設設備（ICT環境、iPad導入、フューチャーーム）等の工事等

3 2020年度 アサンプション国際中学校高等学校 事業報告

【ミッション】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す
～全学年が新体制になるため、「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着

【最重要課題】

1. 入学者の確保 中学校65名以上、高等学校135名を目標とした広報戦略の強化。
2. アサンプション21世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上を目指す。
3. 学校改革に見合った施設設備の充実。

【最重要課題に対する施策と評価】

1. 入学者の確保

- (1) Web ページによる情報発信力の強化⇒広報戦略会議を小・中高と連携する。
- (2) 各説明会の目的を明確にし、内容を充実させる。
- (3) 学校評価アンケートを有効活用した、内部満足度の向上。

【評価】

①中学入試結果・・・中学志願者は46名（△26名）、入学予定者は36名（△14名）であった

中学入試結果	志願者						受験者	入学者			
	生	帰国	A午前	A午後	B日程	追試		併外	併小	併設	合計
2021年度入試		1	26	10	9		46	44	30	6	36
2020年度入試		0	36	16	19	1	72	72	43	9	52
2019年度入試		0	31	16	13		60	56	38	18	56

- 1) 併設小学校からの進学者は6名/13名（46%）⇔2019年10/24（42%）2018年18/32（56%）
- 2) 中学入試出願者について出願者が大幅減少（受験46名、入学36名）⇔昨年-26（実-13）
- 3) サッカー部以外のアカデミックコース男子志願者の減少 2021年度2名

②高校入試結果・・・高校志願者は93名（△17名）、入学予定者は107名（+16名）であった

高校入試結果	志願者						入学者			
	帰国	1次		1.5次		合計		入学者		
	専願	専願	併願	専願	併願	専願	併願	併以外	併設中	合計
2021年度入試	2	46	39		3	48	42	65	42	107
2020年度入試	8	43	59			51	59	63	28	91
2019年度入試	0	63	60			63	60	89	35	124

- 1) 併設中学校からの進学者は42名/54名（78%）⇔2019年28名/30名（93%）
- 2) 高校入試出願者は 専願46名 併願39名 ⇔専願者は+3、併願者は-20
- 3) 併願の戻り率は 17/45=38% 2020年23.3% 2019年44.1% 2018年35.6%
- 3) 生徒の動向・・・内外説明会参加者の男女比 249:357=5:7 で女子の参加増える

③対策の評価

- ・情報発信強化のため、Web ページ、ブログ、Facebook、LINE に加え、instagram も2020年4月より開設した。また Web に動画による学校紹介も追加した。
- 学校の知るきっかけとして Web・SNS の役割が増えてきているので発信を強化する

- ・説明会の内容を工夫、生徒による司会・説明を増やし、また体験型の内容も増やした。
またイブニング説明会などミニ説明会の企画も行い、最後まで志願者を増やすことができた
→ 2021年度もよかった点は継続し、ミニ説明会も継続して実施したい
- ・2020年度学校評価アンケートでは、保護者の数値が向上し、満足度が上昇した

④継続課題と改善

1) 入試広報室（広報課）

- ・組織としての位置づけが不明確で、業務を広報室・広報課に任せた結果、2018年～2020年度前半までに3年間、大手塾本部を除いて地域の塾などの訪問がほとんどされていなかった
- ・2020年度後半より中高入試広報部が広報課を指導する形で、塾訪問は大幅に改善した。
広報室という法人の組織より、入試広報部職員として直轄する形への変更が不可欠に思う。

2) サッカー部のスカウティング

- ・2019年度まで毎年のように中学校とのトラブルがあったが、2019年度入試連絡会で手順を立案、トデール社・サッカー部顧問と手順を打合せ動いた結果、クレームは0になった。

⑤学校評価アンケートでは

- ・生徒・保護者アンケートからは、クラス・学年運営への満足度が大幅に向上した。
担任を中心とした学年団の丁寧な対応、情報発信の結果と思われる

2. 教育力の向上

(1) 英語イマージョン教育の充実

- ①2020年よりイマージョン委員会に改組し、学院長・校長もメンバーに、イマージョン授業の12年間計画を立てることとした。
- ②ネイティブ教員にも積極的に議論に参加してもらい、主体性をもって一緒に教育に関わってもらう体制づくりを行った。

(2) PBL 教育の推進

- ①月に1回の定期的な勉強会を1学期時に複数回実施、本間先生との授業プロジェクトチームからは研修内容を共有する通信を年4回以上発行した。
- ②3月に全教員が参加する授業研修を行い、力をつけるPBL・授業をテーマに研修した。

(3) ICT 教育の推進

- ①全生徒にiPadを購入させ、各授業で積極的に活用している。
- ②その一方でネットワークの維持・保守やトラブル対応に追われている。LAN回線も学院のインフラと考えると、一部教員の善意に頼るのではなく、担当者や必要な費用をかけるべき。
- ③教員貸与のタブレット端末、メディアルームのPCも性能的に限界が来ている。ICT教育をうたうのであれば、定期的に更新する制度・計画を学院で作る必要がある。

(4) グローバル教育の充実

- ①国際交流プログラム・短期留学の充実⇒2019年から分掌に「国際交流」を独立させた。
- ②語学検定等、資格取得の促進（卒業時にCEFR B1～B2レベルの生徒の割合60%を目指す）
- ③海外進学を意識したイベントの充実と実績を出す。

(5) 進路実績の向上

- ①関西学院大学との教育連携強化のため、進路部長・副校長で丁寧に対応している。
またその他指定校推薦枠を使って4割の生徒が大学進学することとなった。
- ②進路指導を充実させ受験による進学実績の向上を目指す
- ③入学者数増、クラス数増の中で「個々の能力にあった教育」の体制維持

【評価】

①21世紀型教育の3本柱について

- ・イマージョン部を設置し、イングリッシュランチの実施や外国語教員同士への連絡を密に行えるようになった。→次年度は外国語教員の意見をさらに吸収できるよう改組する

- ・PBL 教育については多くの授業で自然に取り組みられるようになった
→カリマネ部を廃止、プロジェクトチームを通じて横同士の実践共有を次年度は行う段階
- ・ICT 教育について、全学年が端末を保有し各授業で活用が進んだ
とくに3月以降の臨時休業時の連絡・教材配信では大きな役割を果たすことになった

②進路実績の向上

- ・指定校・AO を活用して、上智大学1名、慶應義塾大学1名、関西学院大学13名、関西大学5名など実績を出した
- ・国公立はAO で1名の合格者を出したが、一般受験まで残る生徒を増やす必要がある
- ・AO 入試、公募推薦入試では、超安全志向の影響で例年以上に厳しい結果となった。

③教員個人の教育力向上

- ・教科指導教員制度を設け、教科によっては授業参観を行うなど有効に活用できたが、多忙の中定期的な指導を行うまでには至らなかった。
→外部研修の推奨、自主研修の実施など今年度違う方法で研修が進むように取り組みたい

3. 学校改革に見合った組織と施設設備の充実

- (1) 中高男子サッカー部についての長期計画を検討する
- (2) クラス数増（新中1：3クラス、新高1：4クラス）に見合った教室を整備する
- (3) 部室、更衣室、ICT 環境等の整備と充実を行う
- (4) 小学校との連携

【評価】

- ①サッカー部の長期計画について理事会で検討されたかどうか、決まった内容は不明である
→現況の委託費用・設備で可能な人数・範囲の確認を理事会・T社で行う必要あり
- ②教室整備工事について
 - ・クラス増に伴う教室工事は2020年3月時点でほぼ終了した。
 - ・サッカー部室・更衣室の改善工事も終了した
 - ・ICT 環境について、メディアルームPC、無線LAN の不安定な部分の改善が必要
- ③小学校との連携
 - ・保護者会等に管理職が出向いて学校概要を説明した。

4 2020年度 アサンプション国際小学校 事業報告

【ミッション】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す。
～全学年が新体制になるため、「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着

【重点課題】

- (1) 授業力向上…教職員の意識改革、組織力強化と授業力の向上の育成
- (2) 英語力強化…イマージョン教育の定着と組織化
- (3) 学院的課題…募集65～80名を目標とした広報戦略の強化
- (4) 幼・中高教職員間…内部進学制度の充実と教員の相互補完
- (5) 宗教教育再生・強化…カトリック校に相応しい全校的体制刷新

【具体的な取り組みと評価】

(1) 授業力の向上

①研究研修体制

コロナの影響もあり、新任教員研修及び研究授業が、計画的に実施できなかった。コロナ禍における新しい研修の形も模索する必要があり、ライブ配信やオンライン会議など、時間と場所に影響されないものも今後検討していく。

②PBL

少人数のチームに分かれて、【指導案作成→ZOOMで講師の先生と検討】という流れで定期的に研修を行った。PBLの理解度を上げることができた。

③ICT活用

個人用iPad導入により、小さなトラブルはあったものの、全般的にはスムーズに運用を開始できた。ネットワーク環境の改善は、課題として残る。また、教員の実践を報告し合う場を持ち、全体のスキルアップにつながる研修を定期的に設定する必要があると感じた。

(2) 英語力（イマージョン）強化

①モジュールタイムの導入

…定期的に朝の時間を確保することで、取り組みを定着させることはできた。今後、内容の見直しも随時行い、更に高いレベルでの英語力定着を図る。

②イマージョン授業レベルアップと全学年への拡大。

…定期的に会議の場を持つことができ、PBLの授業を主体とするという意識統一ができた。
また、指導に際しての注意点なども確認できた
…研究授業の実施は年間で3回実施できた。
…理科教材について、オリジナル教材を使用しながら他校の情報収集を行った。

③中高のイマージョン部との連携

…具体的な指導・カリキュラムなどを検討する会議を実施することができなかった。

(3) 学院的課題＝募集大増強（65～80名） ※入学者84名達成

①コロナ禍における説明会手法の見直し…web配信、2部制、個別相談

…説明会参加希望者が増加。参加者の満足度も高い。また、個別相談で安心して説明を聞いたり、質問したりできるのも好評。

②親密学習塾、親密英語幼稚園等との連携強化

…社会状況により郵送中心になったものの、年間を通じて活動は継続できた。
…一般幼稚園、インター幼稚園共に伸びている。

③入学試験の抜本的見直し

…感染予防策として、「短時間」「非接触」を意識した入試に変更した。

(4) 幼・中高教職員との連携強化

①幼稚園⇒園長推薦制のさらなる確立と説明会実施

…11月・2月に年中・年少への説明会を行った。参加者は安定して伸びている。
…推薦制度とコース決定方法の周知も浸透してきている。

②小学校⇒校長推薦制度改革と中学授業への体験の実施

…4～5年生児童・保護者に対して、進学セミナーを実施した。
…一般向け説明会の案内を行ったが、各回参加者は一桁に留まった。

(5) 宗教教育再生・強化

①学院全体の宗教委員会の立ち上げ

…園校別の課題はあると思われるが、委員会立ち上げには至っていない。

②「宗教の時間」への教員の参画機会増強

…礼拝担当を通じて、Sr.の助言のもと、聖書や創立者の言葉について考える機会があった。
…学級担任は、週1時間の「宗教」授業に参加した。

③教員に対する宗教教育実施

…研修としては行っていないが、朝礼での朗読や日々の教育活動の中で、祈る機会が設定されている。

5 2020年度 アサンプション国際幼稚園 事業報告

【ミッション】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す～全学年が新体制になるため、「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着

【重点課題】

1. 教育充実の取り組み
2. 地域との連携
3. 園児募集に関わる事業

【具体的な取り組みと評価】

1. 教育充実の取り組み
 - (1) キリスト教保育を実践する中で、聖堂に行きシスターより神さまのお話を聞く機会を持つ（各学年で月1回）。神さまに守られながら喜びと感謝をもって日々を過ごす。
 - (2) 本園教員による英語教育カリキュラムの構築と実施した。学年に応じた指導と教育時間に課題が残る。
 - (3) 自立心や自己肯定感を育むモンテッソーリ教育や縦割り保育、横割り保育、音楽鑑賞会等の活動を充実させた。
 - (4) 幼児体操専門の指導者を招き心と体の鍛錬と体力の向上を図り、子どもたちの運動能力を伸ばすための保育を年間38回実施。
 - (5) 公開保育 ECEQ（イーセック）により教員の資質向上を目指した。
2. 地域との連携
 - (1) 地域子育て支援「みんなで あそぼう」を年間10回実施。（園庭開放、行事参加等）
 - (2) 子育て支援事業として、子育て相談員（主幹教諭）を配置する。
3. 園児募集に関わる事業
 - (1) プレスクールの実施（2歳児 15名定員 3クラス 年間20回）。
44名中30人が入園に繋がった。
 - (2) ブログを毎日更新し、子どもたちの様子と園内の新しい情報を提供。
 - (3) 入園説明会を9月に実施。コロナ禍により2回に分けて行なった。

第3 財務の概要

1 財務の経年比較

●入学者数		2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績
高校		45	79	118	122	92
中学		44	30	58	54	52
小学校		35	67	67	67	65
認定こども園		106	105	83	83	73
合計		230	281	326	326	282
●在籍者数		2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績
高校		164	184	233	304	316
中学		133	117	127	139	159
小学校		179	208	244	265	301
認定こども園		309	296	285	285	254
合計		785	805	889	993	1,030
●教職員数		2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績
高校	教員	17	18	22	21	22
	職員	1	1	1	1	1
中学校	教員	14	19	22	21	23
	職員	1	1	2	1	1
小学校	教員	15	21	23	25	29
	職員	1	2	2	1	1
認定こども園	教員	20	19	17	16	18
	職員	1	2	2	2	2
法人	職員	7	7	7	8	7
合計		66	77	84	83	92
		11	13	14	13	12
●資金収支計算書		2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績
収入の部	学生生徒等納付金収入	362	393	489	521	576
	手数料収入	12	12	7	6	5
	寄付金収入	2	205	72	7	10
	補助金収入	298	298	338	426	453
	資産運用収入	0	0	0	0	0
	資産売却収入	0	0	0	0	0
	事業収入	45	47	18	16	14
	付随事業・収益事業収入	0	0	0	0	0
	受取利息・配当金収入	0	0	0	0	0
	雑収入	45	26	14	11	11
	借入金等収入	120	50	470	83	620
	前受金収入	44	55	69	50	54
	その他の収入	455	482	560	675	523
	資金収入調整勘定	△ 92	△ 72	△ 84	△ 122	△ 85
	収入の部小計(A)	1,292	1,497	1,951	1,671	2,181
	前年度繰越支払資金	28	44	78	202	118
	収入の部合計	1,319	1,541	2,030	1,873	2,298
支出の部	人件費支出	717	680	638	729	735
	教育研究経費支出	99	134	141	169	185
	管理経費支出	118	97	130	134	92
	借入金等利息支出	5	5	19	9	6
	借入金等返済支出	19	19	198	53	676
	施設関係支出	27	1	106	52	2
	設備関係支出	4	22	13	14	2
	資産運用支出	102	81	137	138	124
	その他の支出	309	465	455	491	417
	資金支出調整勘定	△ 125	△ 41	△ 47	△ 34	△ 21
	支出の部小計(B)	1,276	1,463	1,828	1,755	2,217
	翌(次)年度繰越支払資金	44	78	202	118	82
	支出の部合計	1,319	1,541	2,030	1,873	2,298
(A-B)年度収支差額		16	35	123	△ 84	△ 36

事業活動収支計算書

項 目		2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績	
教育活動収支	事業活動収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金	362	393	488	521	576
		手 数 料	12	12	14	6	5
		寄 付 金	2	206	0	7	10
		補 助 金	297	298	301	426	453
		経 常 費 等 補 助 金	0	0	0	0	0
		資 産 運 用 収 入	0	0	0	0	0
		事 業 収 入	45	47	50	16	14
		付 随 事 業 収 入	0	0	0	0	0
		雑 収 入	45	4	2	8	2
		教 育 活 動 収 入 計	764	960	855	983	1,060
事業活動支出の部		人 件 費	699	655	629	729	710
		教 育 研 究 経 費	190	224	323	169	282
		内 減 価 償 却 額	91	90	91	93	97
		管 理 経 費	119	98	140	134	92
		内 減 価 償 却 額	1	2	1	2	2
		徴 収 不 能 額 等	0	0	0	0	0
		教 育 活 動 支 出 計	1,100	1,069	1,185	1,126	1,084
教 育 活 動 収 支 差 額		△ 336	△ 109	△ 329	△ 143	△ 24	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受 取 利 息 ・ 配 当 金	0	0	0	0	0
		そ の 他 の 教 育 活 動 外 収 入	0	0	0	0	0
		教 育 活 動 外 収 入 計	0	0	0	0	0
	事業活動支出の部	借 入 金 等 利 息	5	5	5	9	6
		そ の 他 の 教 育 活 動 外 支 出	0	0	0	0	0
		教 育 活 動 外 支 出 計	5	5	5	9	6
教 育 活 動 外 収 支 差 額		△ 5	△ 5	△ 5	△ 9	△ 6	
経 常 収 入		764	960	855	983	1,060	
経 常 支 出		1,104	1,074	1,190	1,135	1,089	
経 常 収 支 差 額		△ 341	△ 114	△ 335	△ 152	△ 30	
特別収支	事業活動収入の部	資 産 売 却 差 額	0	0	0	0	0
		そ の 他 の 特 別 収 入	1	7	0	0	0
		特 別 収 入 計	1	7	0	0	0
	事業活動支出の部	資 産 処 分 差 額	0	2	0	7	0
		そ の 他 の 特 別 支 出	1	0	0	0	0
		特 別 支 出 計	1	2	0	7	0
特 別 収 支 差 額		△ 0	5	0	△ 7	△ 0	
基本金組入前当年度収支差額		△ 341	△ 110	△ 335	△ 159	△ 30	
(参考)							
基本金組入前当年度収支差額(減価償却控除前)		△ 249	△ 18	△ 243	△ 65	69	
事業活動収入計		765	966	855	983	1,060	
事業活動支出計		1,105	1,076	1,190	1,143	1,090	
人件費比率(寄付金控除後)		91.4%	86.1%	73.6%	74.7%	67.7%	
基本金組入前当年度収支差額(減価償却控除前)							
中高収支		△ 111	△ 142	△ 60	△ 54	△ 50	
小学校収支		△ 58	△ 40	△ 6	20	35	
認定こども園収支		△ 50	△ 7	8	15	△ 3	